

持続可能な社会づくりの人材養成塾

あいち

2019
年度

環境塾

AICHI
ENVIRONMENT
JOB SCHOOL

環境に興味のある人たちが学びながら意見を交わす「交流の場」として、
平成20年度から愛知県と(公財)名古屋産業科学研究所が共同で開講している塾です。

環境と愛知の未来を
共に考える

愛知県環境部
環境政策課
環境教育推進課
事務局
〒466-8601
名古屋市中区
栄三丁目

主催：愛知県、(公財)名古屋産業科学研究所

後援：名古屋商工会議所、一般社団法人中部経済連合会、環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)

開講の趣旨



愛知県知事
大村 秀章

経済活動や日常生活による環境への負荷の増大や天然資源の枯渇などが懸念される今日、社会全体の仕組みを見直し、持続可能な社会を形成していくことが私たちの重要な課題となっています。

私たちの求める持続可能な社会は、環境と産業と暮らしが調和するとともに、快適かつ安心であり続けることのできる社会であり、そのためには、地域の住民や企業、行政などが協働して社会の仕組みを創り変えていくことが求められます。

本県は、モノづくりの地域として様々な産業技術の集積が存在すると同時に、我が国有数の農業県であり、さらには豊かな海や森林が広がるなど、多種多様な資源を持つ地域です。持続可能な社会づくりは、これらの“資源”を大いに活用して進めていく必要がありますが、そのためには、“ビジョン”と“こころざし”を持つ人材を育成することが何よりも大切です。

こうした考えのもと、本県では、企業や大学、行政などといった様々な分野において、環境を基調とした地域づくりのリーダーの育成を目指して「あいち環境塾」を開講しております。

この「あいち環境塾」では、講師陣に環境分野で活躍する研究者、指導者を迎えています。そして、講義に加え、講師も加わった討論や合宿などを通して、互いに切磋琢磨し、目標を共有する仲間づくりができるようなクリエイティブな場とすることを目指しています。

本県で、環境、産業、暮らしにおける持続可能性が高まり、さらにより良い地域へと生まれ変わっていくために、そして我が国全体を持続可能な社会としていくために、「あいち環境塾」への皆様のご参加をお待ちします。

2019年3月

あいち環境塾の特色

1 「環境」を多角的に学び、「統合」をめざす「塾」

企業の取組であっても、行政の取組であっても、環境のプロジェクトを実現し成功させていくためには、地球環境や社会全体に与える影響を考える必要があります。環境に一人勝ちはありません。良いプロジェクトを企画するためには、企画者自身が環境について様々な視点から多角的に学び、それらを統合して、利害関係者に働きかける、大きな発想が求められます。「あいち環境塾」は、このような「統合」をしていただけるような場を目指しています。

2 こころざしを持った人材が集う「塾」

「あいち環境塾」は、企業や大学、行政などで「環境」の実務や研究に携わり、持続可能な社会づくりの“こころざし”を持つ方々が集い、自らが積極的に学び、意見を交わすことを通じて、互いの視野を広げ、分野を越えた協働の可能性を発見する、交流の場となることを目指しています。

3 各分野の第一人者と対話できる「塾」

「あいち環境塾」の講師陣には、エネルギー、環境技術、資源循環、環境ビジネスなど、関連分野における我が国を代表する第一人者を招聘します。参加者は、講義を受けるだけでなく、丸一日、講師と時間を共にして意見を交わし、理解を深めることができます。

4 ビジネスモデルや政策の提言に向けたチーム活動

塾期間中を通して、チームで「20年後の未来社会へ向けての環境に関する政策やビジネスモデル」づくりに取り組んでいただきます。最終日には「1泊2日の合宿」で、チームごとに政策やビジネスモデルに関する研究成果を愛知県に発表していただきます。塾生の相談役として、大学の研究者を中心とした「チューター」が毎回出席し、塾生の皆をサポートします。

5 修了の成果

卒塾生は、塾で学んだ環境に関する知識を生かし、職場改善や地域での環境活動に取り組んでいます。また、塾生同士、チューター、卒塾生、講師とのネットワークが築かれるのも「塾」の目的であり、そのネットワークが卒塾後の活動に生かされています。卒塾生や地域社会を創る人たちの活動の場として、卒塾生等が中心となりNPO法人AKJ環境総合研究所を設立し、平成26年度から活動しています。



あいち環境塾のメンバー

塾長



愛知県副知事
宮本 悦子

顧問



愛知工業大学
工学部
教授
(公財)名古屋産業科学研究所
理事・副所長・研究部長
鈴置 保雄

プログラム・コーディネーター



「あいち環境塾」の講座プログラムを提案・改善していくため、プログラム・コーディネーターを依頼しています。

(株)ヨクオートモールクリエイティブ専務取締役
近藤 元博氏

主な講師陣



(公財)廃棄物・3R研究財団
理事長
岡山大学
名誉教授
田中 勝氏



東京工業大学
特命教授・名誉教授
科学技術創成研究院
先進エネルギー
国際研究センター長
柏木 孝夫氏



東京大学
国際高等研究所
サステイナビリティ学連携研究機構
教授
高村 ゆかり氏

廃棄物処理の課題と展望

生活環境の保全と公衆衛生の向上を目的に廃棄物処理が行われている。処理のために、焼却施設や最終処分場など施設が必要となる。廃棄物処理の改善の歴史、法整備の歴史から、現在の3Rの推進と適正処理の確保の廃棄物処理の現状、課題を解説する。容器包装リサイクル法、食品リサイクル法から小型家電リサイクル法までを解説しながら、今後の展望について考えてみたい。

日本のエネルギー戦略と今後

パリ協定を受け、我が国や米国の関連政策の最新状況を述べる。加えて、再生可能エネルギーに対する光と影、脱炭素型エネルギーシステムの実現に向けた動き、化石燃料の高度利用に対する最新の政策動向等について解説する。電力・ガス小売りの全面自由化に代表されるようなエネルギーシステム改革は、産業界の競争力強化に繋がるだろう。21世紀の我が国の成長エンジンは、脱炭素エコノミーをい早く実現することにある。実現方策をともに考えたい。

国際的な環境問題にどう対処するか

地球温暖化をはじめとする国際的な環境問題の解決を目指して、国際社会は、様々な努力を積み重ねています。国際条約が締結され、国際的な環境問題の解決に協力するための枠組みが生まれ、各国の環境法や環境政策に少なからぬ影響を与えています。国際社会がこうした国際的な環境問題にいかに対処してきたか、どうしたらより効果的に対処できるか、日本の環境法や環境政策にどのような影響を与えているかを皆さんとともに考えます。



横浜国立大学
名誉教授
(株)環境資源システム総合研究所
取締役会長
浦野 紘平氏



神戸大学
大学院科学技術
イノベーション研究科
教授
尾崎 弘之氏



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
プログラム・ディレクター
特任教授
中静 透氏

化学物質の役割及び化学物質による被害事例とリスク管理

化学物質の急速な普及によって、現在の私たちの生活は、便利で快適になった一方で、人類が経験したことのない「化学物質の海を泳いでいるような生活」になっている。化学物質による被害事例にはどのようなものがあるのか、化学物質の有害性はどのように評価されているのか、そのリスクはどのように管理されているのかなどを紹介し、今後どうすべきかを考えたい。

環境分野でオープンイノベーションを目指す

環境省の調査によると、国内環境産業の市場規模は、104.3兆円に上り、249万人もの雇用を生んでいます(いずれも2015年、環境省による)。特筆されるのは、「地球温暖化対策」関連の市場は過去10年間で4倍以上に急成長していることです。低成長に苦しむ日本経済にとって、環境ビジネスは成長分野です。グローバル市場においても、環境・エネルギーはITやバイオと並ぶポテンシャルが期待されています。新しい事業でイノベーションを起こすには、ベンチャービジネスの仕組みを知る必要があります。起業家の視点で、環境ビジネスに取り組んでください。

生物多様性と生態系サービス

生物多様性の問題は絶滅危惧種や外来種の問題だけと思われがちです。しかし、生物多様性は私たちの毎日の生活に欠くことのできない恵み(生態系サービス)をもたらしています。生物多様性が生み出す生態系サービスをどのように賢く利用するかは、私たちの社会の持続可能性を大きく左右します。こうした側面からとらえることにより、生物多様性の利用と保全の意義、さまざまな立場でできること、行うべきことを考えてみます。



京都大学
大学院農学研究科
教授
栗山 浩一氏



中部大学
総合工学研究所
特任教授
武田 邦彦氏



中日新聞社
論説委員
飯尾 歩氏

自然の恵みはタダなのか?

きれいな空気、水、美しい景観など、私たちは自然から様々な利益を得ています。しかし、自然の恵みの大半は価格が存在しないため、守っても利益が得られません。自然を守るには、自然の恵みがタダではないことを示すことが重要です。そこで、自然の恵みの価値を金銭単位で評価する手法として仮想評価法(CVM)が注目されています。自然の価値を評価する方法を紹介するとともに、自然の価値と保全のあり方について考えます。

環境破壊は進んでいるのか?

人間は優れた知恵と不断の努力で、決して「悪い社会」へは向かわない。これは数1000年の歴史で証明されている。環境破壊も不安な心理が創造したものであり、現実には日本はもとより、人類の環境は格段に良くなっている。知恵と努力に自信を持ち、お互いに非難するのではなく、力を合わせてさらに良い地球にするように考えるべきであろう。

環境ってなんだろう?—メディアから

名古屋ごみ非常事態宣言20周年で考えました。これまで見ていなかった問題をメディアが見える化し、行政が仕組みを作り、市民一人が自分のために自分にできることを考える——「危機感を共有すること」から始まった20万トンのごみ減量でした。SDGsもパリ協定も「全員参加」がキーワード。環境問題の解決は「自助」の積み上げでしかない。私たちにできること、あらためて考えましょう。

チューター陣

「あいち環境塾」では、塾生の皆さんの相談役として、若手研究者の先生方を中心に「チューター」を依頼しています。チューターは、すべての講座に出席して、塾生をサポートします。

リーダー
藤井 芳一 人間環境大学人間環境学部環境科学学科科長
 環境教育センター長 准教授

サブリーダー
薄井 智貴 名古屋大学大学院経済学研究科 特任准教授
 (2019年4月より人間環境大学人間環境学部環境科学学科 教授)

サブリーダー
奥岡桂次郎 名古屋大学大学院環境学研究科 助教

小谷 博光 人間環境大学人間環境学部環境科学学科 助教

小宅 由似 人間環境大学人間環境学部環境科学学科 助教

神本 祐樹 名古屋大学 未来社会創造機構
 マテリアルイノベーション研究所 准教授

窪田 光宏 名古屋大学大学院工学研究科 助教

志水 剛 特定非営利活動法人AKJ環境総合研究所
 (あいち環境塾 第10期生)

杉山 範子 名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授

武田 美恵 愛知工業大学工学部建築学科 准教授

東海林孝幸 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 講師

西田 美紀 人間環境大学人間環境学部環境科学学科 助教

羽田 裕 愛知工業大学経営学部経営学科 准教授

古川 陽輝 名古屋工業大学生命応用科学学科 助教

山根 卓二 人間環境大学人間環境学部環境科学学科 教授

※2019年2月現在

講座のご案内

■開催日 2019年6月15日(土)～11月16日(土)までの間の12日間 ※詳細は別途カリキュラムをご覧ください。

■募集期間 2019年3月8日(金)～5月9日(木)

■講座プログラム

開講式、オリエンテーション	6月15日(土)	
講義、講師との懇談	6月22日(土)～11月2日(土)のうち9回	午前/環境分野で活躍する講師による講義 午後/講師との懇談、講師と自由な意見交換
チーム活動、研究活動	6月22日(土)～11月15日(金)のうち10回	チームでの「20年後の未来社会へ向けての環境に関する政策やビジネスモデル」づくり(基礎コース) 自ら環境活動やビジネスを実践していくための研究(アドバンスコース)
合宿(1泊2日)	11月15日(金)～11月16日(土)午前	活動成果の発表準備
発表会・修了式	11月16日(土)午後	活動成果を発表
成果物	報告書：活動成果を報告書にまとめます(基礎コース・アドバンスコース) パネル：活動成果を1枚のパネルにまとめます(基礎コース)	

※原則、全日程に参加して修了となりますので、出席日数等により修了証書をお渡しできない場合がございます。

■オプション(参加費無料)

オプション講座Ⅰ	6月16日(日)	午前 基礎講座(ファシリテーション)の補講
オプション講座Ⅱ		午後 エネルギー講座
現地見学会、卒塾生との懇談	7月20日(土) (見学先は未定)	

※参加対象：本年度受講生、卒塾生。

■各コースの参加にあたって

	基礎コース	アドバンスコース
参加費	5万円(税込) ※オプション講座は無料	無料
募集対象者	県内の企業、団体、大学、行政機関等に所属されている方などで概ね60歳くらいまでの方(原則、全12日間参加できる方)	あいち環境塾の基礎コースを修了した方で、原則全12日間参加できる方
定員	20名 ※定員を超えた場合は入塾申込書に基づき選考させていただきます。また、面接をさせていただく場合もあります。	若干名

■お問合せ

愛知県環境部資源循環推進課(循環グループ)

2019年4月より「愛知県環境部」は「愛知県環境局」へ名称変更となります

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：(052)954-6233(ダイヤルイン)

FAX：(052)953-7776

E-mail: junkan@pref.aichi.lg.jp

■お問合せ・お申込み

**公益財団法人名古屋産業科学研究所
 中部ハイテクセンター(CHC)**

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目10番19号

電話：(052)223-6639 FAX：(052)211-6224

E-mail: kankyojuku@nisri.jp

URL: http://www.nisri.jp/chc/gathering.html



あいち環境塾 検索